

令和2年度

第1回

教育課程編成委員会報告書

於：令和2年7月27日  
学校法人長野県理容美容学園  
長野理容美容専門学校

# 第1回教育課程編成委員会 報告書

日 時：令和2年7月27日（月）14:00～

場 所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：SORA 伊藤 秀一 先生

スタジオエーワン 小出 誠司 先生

松林校長・柏原教務主任・中澤主任

○松林校長より

4月、始業式後まもなく休校期間となってしまったが、例年と比べても問題なく、期末試験を終えることができています。1日も授業がないまま、自宅学習となってしまったので、どの学生にとっても不安であったと思われる。2学年は国家試験や資格試験、就職活動に対しての不安が。1学年は、実技にしても学科にしても様子がわからない中で学修に対しての不安があったようだ。そんな中でも与えられた課題を行うことで、休校明けにもスムーズにスタートすることができた。教育を止めてしまえば、資格試験だけでなく、卒業することもできなくなってしまう。本日は、感染対策を含めて教育内容を重点的に議論していただき、こういった中でも充実した教育が行き届くよう忌憚ないご意見を頂戴したい。

## 【議題】

### 1.令和2年度第1回自己評価委員会報告・学校関係者委員会報告

令和2年度自己評価・自己点検中間報告について（資料1）

令和2年度中間報告として、教育理念の2項目・学校運営の4項目・学修成果の1項目・学生支援5項目・教育環境の2項目・学生募集と受け入れ3項目について、評価4について継続的に向上した部分を報告、評価4を今まで以上により内容の濃いものにしていく必要がある。

新型コロナウイルスの影響がある中、先生方の努力により、感染者を出さずにいてくれる事を評価している。資料請求数が例年より多いことについて、良い兆しを上手く活用して行ってほしい。SNS・インスタグラムを今まで以上にもっと効果的になるよう努力して行ってほしい。

**（基準1）総括** 美容科は職業実践専門課程の認定校として、産学連携の授業内容により実践的な、卒業後即役に立つ技術を習得できるカリキュラム編成となった。ビューティビジネス科もブライダルの専門知識を学ぶ授業を組み入れることにより幅広いビューティビジネス業界で活躍できるカリキュラムとなった。

・学校関係者評価委員より適切に行われているといただいた。

伊藤委員コメント 教育理念・目的・人材育成は土台となる部分で、大事にするところである。長野理容美容専門学校は「挨拶・返事・礼儀・整理整頓・清掃」を重点目標として、しっかり育ててくれていると感じている。

小出委員コメント 学校・教育センター・美容組合と産学連携で、美容の技術者を育てるということは大事な事である。学生も、学校も、サロン側も幅広く情報収集できることも、美容業界を良くしていくことに繋がっていくと思われる。

**（基準2）総括** ・インスタグラムなどを活用し、学校の情報提供をするなどウェブサイトの充実を図っている。

・学校関係者評価委員より適切に行われているといただいた。

伊藤委員コメント 若い人たちの目線や若い人たちが研究することはとても大事。しかし、しっかりSNS教育をしていかないと、大人が常識と思うことも、若い人にとってはわからないことが多い。SNSでは個人的に連絡することができるので、作品を上げつつ接点を持ってしまい、トラブルになるケースがある様だ。せっかく良い事に取り組んでいるのに、悪評に繋がってしまう危険がある。長美の看板を背負っているという教育をすることで回避されるのではな

いか。

小出委員コメント フォロワー数が増えれば、それだけ様々な見方をする人がある。教育して発信する力をつけることは大事だ。

### (基準3) 総括

- ・感染症感染防止対策のため休校となったが、履修可能な方法で対応していく。
- ・今後の感染の状況により、オンライン授業などに速やかに取り組めるように準備していく。
- ・メンターとしてのスキルを上げていく講習会を行った。今後も定期的に行っていきたい。
  - ・学校関係者評価委員より助成金を上手く活用していき、在校生の満足を最優先にしてほしい。県外の美容学校からの編入の間口を広げたほうが良いとご意見いただいた。

### 伊藤委員コメント

w i f i 環境は早急に整えたほうが良いと思う。今の若い人は動画のほうが受け入れやすく、VRの使用や今後は5Gを上手に活用して教育していくとよいのではないかな。

### 小出委員コメント

・高齢化社会になり、さまざまな年代でさまざまな状況に対応するために、理美容福祉士のカリキュラムはとても素晴らしい勉強だと思う。

### 今後の改善方策

- ・感染症拡大で大変な年度だが、学生意欲は例年より高まっていると感じている。大変な状況だが、学生たちは前向きになれているので、在校生満足を第一に今後も対応していく。

### (基準4)

- ・令和元年度美容師国家試験 94.3%(実技3名不合格・学科2名不合格)  
日本エステティック協会認定エステティシャン試験の合格率100%達成を果たしている。
- ・令和元年6月に行ったサービス接遇検定の合格率85%。・メイク検定 100% ・ネイル検定 96%
- ・パーソナルカラー検定 79% ・ヘアカラー検定 100%
- ・休校期間に学びの場を止めることがないように、課題が出せたこともあり、学校に登校できなかった分、意欲が高まっていたと思われる。また、スクールカウンセラーとして親子塾と提携したことにより、職員のメンターとしての役割の中で、安心感が得られていると思われる。

### 伊藤委員コメント

- ・親子塾という名の通り、保護者のカウンセリングも対応して下さるようだが、需要はあるのか？  
→保護者の接し方で学生のメンタルのだいぶ変わってくる。できれば保護者と一緒に問題解決していけるのが理想でその部分でもご協力いただく予定だが、今現在は活用されている保護者はいない。

### 小出委員コメント

- ・なるべく一人一人に声掛けし、少しでも休退学率の低減につなげていっていただけたらと思う。長い会話でなくても、一言声をかけてもらえただけでもうれしいと思う。国家試験の技術は皆さん大変すばらしい。衛生は少し厳しく感じるが、対応していくしかない。  
→国家試験や資格試験後に、新たに確認すべきことが生じ、そのたび職員で共有しつつ、学生に指導していきたい。

(基準5) 総括 「あなたが誰かの夢になる」というスローガンのもと、個々の興味や研究を深めていくことで、確立できると考える。

- ・新型コロナウイルス影響により、1回目就職ガイダンスの中止。2回目就職ガイダンス県内サロン希望者のみ実施。就職時期が例年より遅れているため、就職相談を密に実施している。

- ・離職率が例年に比べ現段階で10名。就職先を決定するにあたり、きちんと考え決めるよう指導していく。
- ・ビューコレ延期、修学旅行のディズニーランドは団体受付をしていないので延期にせざるを得ない状況。様々な行事が行えないため、ミニヘアショーやフォトコン、校内競技会などで学生満足に繋げていきたい。

#### 伊藤委員コメント

・サロンでも研修を行うことができず、働くときに必要な理念を十分に教育できなかった。高校生から通信課程で雇う場合と美容学校で学んできた場合では、お金の事や接客のことなど技術以上に考え方が違う。また、育った環境や学力差等どこに焦点を当てたらよいのか難しい。受け入れた美容室は、お客様からお金を頂ける美容師に育てることが目標である。早期にやめてしまわない様、実習や放課後のガイダンスなど上手に摂り入れ、働くという意識付けができればよいと思う。

#### 小出委員コメント

・就職してからすぐに必要になるのがシャンプーである。シャンプーはお客様に直接かかわることができる技術であり、気持ち伝わりやすい。お客様の「有難う。気持ち良かったよ。」の一言が明日への活力につながる。シャンプー技術の力をつけておくことも離職率低下につながるのではないかな。

**(基準6)** 総括 学校環境をよくすることにより学生が落ち着いた学校生活を送り高度な技術力と社会性が身に付き社会に出ても活躍することができるような教育を目指している。

- ・実務実習、来校実習、アゲインイベントなど中止となっているが、感染の状況により、防止対策を十分に行って、可能な限り実施していく方向で進めていく。

校内競技会・各クラスレクリエーション（ワインディング早巻き大会など）実施予定である。

- ・来年度の6/21に行われる美容組合と美容商業組合の大会に参加希望の学生を募る。
- ・来年度5/3に開催予定であるナガコレは従来よりも大きなイベントになる予定であるため、こちらも学生希望者を募る。

#### 伊藤委員コメント

- ・実務実習に際にも各サロンにシャンプー教育などの協力はしていけると思う。

#### 小出委員コメント

サロンごとに手技は違うが、お客様の気持ちを感じる力である。どんな手技でもお客様の気持ち良さを汲み取り練習することでサロンに就職してすぐに役立てているという自己肯定感が高まると思う。

**(基準7)** 総括：昨年より入学者が20名減となっている。引き続き他県に流れてしまう学生の食い止めと、美容業界のさらなる魅力を伝えていく必要がある。  
在校生の満足度を上げ、卒業生への手厚い対応により、学生募集へとつなげる

- ・高校周り今月からようやく動き出した。高校のスタートも遅かったため、まだ調査が進んでおらず明確な答えではなかったが、就職する学生が多いようだ。通信課程が増えるかもしれない。就職希望でも美容室であれば望みはあると思われる。

#### 伊藤委員コメント

・全国的に学生数が減っているため致し方ない。サロン側も働き方改革を機に、時間短縮や休日を増やし、新しい状況でもやっていけることがわかってきた。美容師になりたい人が減ってしまう要因として、待遇もあったと思うので、美容師側もSNSなどを利用し、待遇とやりがいについて伝えていきたい。

#### 小出委員コメント

- ・有給休暇や待遇などは、一般企業と比べてもよい状況になるといい。

#### 伊藤委員コメント

- ・本来の美容師のやりがいと待遇のバランスが良くなるといい。

**(基準8)** 継続して、問題なく実施できている。

委員コメント 適切に行われている。

(基準9) ・全職員が重点目標に対し理解を高めて、自己評価し問題解決に向かっている。

- ・定期的に自己評価委員会及び関係者委員会を実施し、定期的に自己評価を行い、随時公開していく。

委員コメント 適切に行われている。

(基準10) 継続して、問題なく実施できている。

委員コメント 適切に行われている。

## 2. 重点目標について (別紙1・2参照)

### (1) 令和2年度重点目標実施報告

中間報告として、現時点で令和2年度重点目標の実施状況の報告

#### ① 教育活動

- ・引き続き「整理・整頓・挨拶・礼儀」を身につけさせる。
- ・ほめて育てていくことを心がける。
- ・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法を実施。

#### ② 学生支援・学修成果

- ・教職員の統一指導と技術向上を目指す。姉妹学級の強化。(学生との距離感)
- ・学生が楽しみながら学べる環境づくり
- ・z o o m講習会実施予定である。
- ・学生が学校生活を快適に送れる環境づくりを強化していく。(スクールカウンセラーの活用)
- ・職員の技術や知識を高めて、学生支援を充実させ、退学率の低減を図る。

#### ③ 学生募集

- ・ボランティア活動・各種イベント・コンテスト出場等、学生の自発的活動を支援。
- ・在校生の満足度を向上させるために、対策をとっていく。(在校生のロコミの力)
- ・オープンキャンパスの満足度アップを目指す。
- ・今年度オープンキャンパス委員になりたい学生が多い=在校生満足度を向上していく。
- ・SNS・HPの活用(写真の工夫)
- ・教育成果を正確に伝え、学生募集活動を充実させる。

### 伊藤委員コメント

- ・コミュニケーション能力は高めていってほしい。お客様に気を使えない人は美容師に向いていないと思う。相手に気を遣う。相手に気を遣えば自分にも気を向けていただける。コミュニケーションが苦手な学生には、軽い言葉がけから挑戦していってほしい。

### 小出委員コメント

- ・自分がお店を持った時に、お客様の見るイメージがつくかどうか。整理整頓のできていないお店の居心地が良いと思うか。整理整頓がうまい学生を参考にするとか、ノートのとり方がうまい学生を見本にするなど学生の時に訓練しておくといよい。

## 3. カリキュラムとシラバスについて

在宅学習期間の学びの様子と、まとめかたについてご確認いただいた。また、今後のカリキュラムとシラバスについての確認をしていただいた。

委員コメント 適切に行われている。

#### 4. 休校時の対応について

委員コメント 適切に行われている。今後の感染の状況によっては、感染拡大防止を十分に行いつつ、資格試験や国家試験の受験に不利にならないように実施していく必要がある。

→感染者を出さないように最善を尽くして、指導していきたい。

#### 5. 学生の様子

1年生は比較的落ち着いていて、学習意欲が高い学生が多い。実技の期末試験は、例年に比べて高レベルな結果となった。2学年は緊急事態宣言のため、就職活動が思うようにいかないことや、資格試験・国家試験に向けての不安があったが、学校が再開したことにより、良い意味での危機感を持って取り組めることができているため、学科期末試験の再試不合格者はいなかった。感染防止のためイベントが延期や中止になっているが、感染防止対策を行い、できることはやれるだけやっていきたい。

#### 6. 業界から

##### 伊藤委員コメント

・1年生の外来カット授業の際、食いつきがよく、学びたい気持ちの強さを感じた。吉澤先生・吉家先生もこの学生の気持ちを大事にしていきたいと言っていた。4月の緊急事態宣言からGWまではどこのお店もお客様が少なかった。主婦や小さいお子さんのいるスタッフにはお休みを取ってもらった。その分、新入社員への心のケアが足りなかったのも、今年度の早期の退社にかかわっているのかもしれない。今まで経験したことのないことで、考えさせられることが多かった。今は反動でお客様がだいぶ戻ってきている。必要な仕事だと思っただけでいる。

##### 小出委員コメント

・今回の感染防止のため、組合の研修、講習会はすべて中止になり、3月から5月までの前年比は9割のお店が売り上げ減少したと答えている。国からの補償としての日本政策金融金庫の特別貸し付けは、生活安全衛生課によると民間借入額80%。雇用情勢給付金、持続化給付金の予防ガイドラインが5月29日に制定され、美容所の厳しい状況になんとか対応していこうとしている。不要不急の外出禁止のため、多くの職種に補償が給付されたが、美容所は対象職種ではなかった。必要な職種であり衛生法を学んでいる職種であるということである。美容師は密接であるが、衛生法を学んでいる以上、お客様が安心して来店されるよう、感染者を出さない、人へ感染させない、を徹底している。予約の段階から検温のお願いと問診票の徹底、従業員の体調管理の徹底、マスク手洗い、椅子やセット面、接触器具の消毒の徹底、店内換気やソーシャルディスタンス、完全予約で会話はなるべく控える。お茶のサービスは行わない。など徹底している。ファッション分野でクローズアップされていたが、衛生法規の国家資格者として衛生を見直すことができた。